

町に縁のある重次郎の舞台に、会場は超満員に

冒険家・和田重次郎の生涯を舞台化 「オーロラに駆けるサムライ」内子座公演

アラスカ開拓の先駆者・和田重次郎の生涯を描いた みかん一座ミュージカル「オーロラに駆けるサムライ」(N PO法人和田重次郎顕彰会主催)は12月24日、内子座 で上演されました。重次郎は内子町にも縁が深いこと から、公演に当たっては、内子手しごとの会が中心と なって舞台装置を製作し、稲本隆壽内子町長も出演す るなど、多数の町民が参加。また後日、入場料売り上 げの一部が内子座備品充実委員会に寄付されました。



寸劇で分かりやすく 110番のかけ方を紹介

落ち着いて、確実にかけよう 大洲警察署・内子交番「110番の日」

警察署の活動を身近に感じてもらうとともに、正しい110番のかけ方を身に付けてもらおうと、内子東自治センターで1月10日、「110番の日」(大洲警察署、内子交番ほか主催)の催しが開かれ、五城保育園の園児や地域住民など約200人が参加しました。警察への相談に110番を利用していたため交通事故の通報が話し中でつながらない事例を紹介し、「緊急時は110番、相談は専用ダイヤルを利用して」などと呼び掛けました。



⑤新しい観光マップを考えるワークショップ。グループごとに、「食」や「人」などさまざまな切り口で町の魅力を伝えるマップを作成⑤「まち歩き」の魅力を語る田中さん

※コンプラドール…長崎の 出島でオランダ貿易に たった仲買人のこと



まち歩きで内子町の魅力を発信 まちづくり観光振興セミナー

観光庁の「地域の観光資源の魅力を活かした顧客満足型旅行商品推進事業」の一つとして、新たな観光コースの開発を目指す内子町ニューツーリズム推進協議会(宮岡廣行会長)は1月12日、内子自治センターで、まちづくり観光振興セミナーを開きました。

NPO法人長崎コンプラドール事務局長・田中潤介さんを講師に迎え、「まち歩き」という観光振興の手法で有名な「長崎さるく」の取り組みを学習。「さるく」とは「まちをぶらぶら歩く」という意味の長崎弁で、特製マップを手に自由に歩く、さるくガイドの案内を聞きながら歩く、体験を楽しみながら歩くなど、さまざまなスタイルのまち歩きを提案しています。

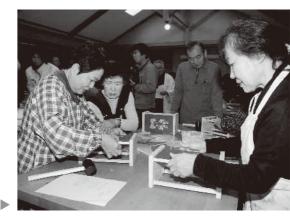
参加者は受講後、グループに別れて、内子らしい観 光マップ作りに挑戦。田中さんは、「内子町には魅力的 な観光資源が多くある。それを生かして、普段どおり の魅力を発信して | と語っていました。

内子ならではの体験メニューを開発

うちこグリーンツーリズム協会

特色のある体験活動を提供しようと、うちこグリーンツーリズム協会(藤渕利通代表)は12月11日、内子自治センターで体験メニュー開発講座を開きました。地域の素材や伝統の技術を生かした作品作りに取り組む内子手しごとの会(山本勝美代表)の指導を受けながら、あんどんや箸作りなどの体験メニューを検討しました。





優しさの花がいっぱい咲く地域に 大瀬地区人権まつり

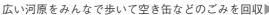
「第25回大瀬地区人権まつり」(実行委員会主催)は12月11日、同地区内の小・中学校を会場に開かれました。 大瀬小学校体育館で行われた全体会では、大瀬中学校3年生がテーマから脚本まで全て自分たちで考えた人権劇を上演。東日本大震災で被災した転校生に対するいじめの問題を通して、人と人の「絆」の大切さを訴えました。





美しい小田川をいつまでも 大きな榎の木の下で

「第20回大きな榎の木の下で」は12月17日、豊秋河原で開かれました。この催しは、子どもたちに美しい小田川を伝え残そうと、町民有志からなる実行委員会が賛同者の寄付を募って実施。親子連れなど約120人が参加し、河原でごみ拾いをした後、紙芝居を見たり手作りの料理を味わったりしてひとときを過ごしました。





地元特産のそば打ちに挑戦 石畳小学校の児童たち

石畳小学校(仲田博親校長、児童14人)では、地域学習の一つとしてそば作りに取り組んでいます。児童らは昨年8月に種まきを行い、11月に刈り取りや脱穀を体験。その実を使って12月22日、そば打ちに挑戦しました。亀田強さん(石畳9)、政岡勝利さん(石畳8)に教わりながら打ったそばを、おいしそうに食べていました。

亀田さんに手伝ってもらいながら、大きな包丁で慎重にそばを切る▶



<u>広報うちこ 2.1.2012</u>